「グッドデザインと機械工学」 小特集号発刊に際して

Good Design and Mechanical Engineering

村上 存

Tamotsu MURAKAMI

◎1984年東京大学工学部機械工学科卒業, 1989年同大学院産業機械工学専攻博士課程修了。

◎研究・専門テーマは, 設計/デザイン工学, ヒューマンウェア工学

◎正員(フェロー), 東京大学教授
大学院工学系研究科機械工学専攻

(〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1)

E-mail: murakami@mail.design.t.u-tokyo.ac.jp

「グッドデザイン賞」⁽¹⁾は, 生活や産業, 社会全体を豊かにする「よいデザイン」を顕彰する, 総合的なデザインの推奨制度である。その対象は, 家電やクルマなどの工業製品から, 住宅や建築物, 各種のサービスやソフトウェア, パブリックリレーションや地域づくりなどのコミュニケーション, ビジネスモデルや研究開発など, 多岐にわたる。そして, グッドデザイン賞を受賞した対象には, そのシンボルマークであるGマークを使用することができる。グッドデザイン賞という名称は知っている, Gマークは知っている, という方は多いと思うが, 賞や制度の具体的な内容, 機械工学との関わりはご存じない方も少なくないのでは, との考えから, 今回の特集を企画した。

「デザイン」という言葉は, 「モノの形態や色彩の美術的な計画」のような狭い意味から, 「(美的要因や感情的要因なども含めた)モノやコトの総合的な計画」のような広い意味まで, 人や文脈により, さまざまな使われ方をする。筆者も2009年から審査委員の末席に加えていただいているグッドデザイン賞は, 後者の意味でのデザインを審査しており, 受賞する工業製品においては機械工学が大きな役割を果たしている例も少なくない。そこで今回の特集は, グッドデザイン賞の概要に加え, そのような受賞製品事例に関する記事で構成した。

さて, 20世紀を代表する工業デザイナーであるRaymond Loewyは, 消費者にとっての「新しいものの魅惑」と「未知のものに対する恐れ」に触れ, 両者のまさに境界であるMAYA (Most Advanced Yet Acceptable) 段階を, 最も好ましいデザイン(消費者にとって最も先端的で, しかも受け入れられる)であるとしている⁽²⁾。機械工学の成果がなければAdvancedにはなれず, しかし, 機械工学の観点のみではAcceptableを見失う可能性がある点で, 優れたデザインのためにはデザイナーとエンジニアの連携が必要不可欠であると言える。また, 日本発の革新的製品の一つであり, 先日亡くなった米国Apple社のSteve Jobsも高く評価していた, ソニーの初代ウォークマンの開発プロジェクトのリーダーを務めた工業デザイナー黒木靖夫は, 「技術者の人たちが自分たちの殻から出てこないから, 仕方なくデザイナーたちに技術を学ばせて, こちらから押しかけている。けれど, それが理想解ではない。デザインの領域にどんどん踏み込んでくれる技術者が沢山現れることを本当は望んでいる」と述べている⁽³⁾。今回の特集が, 工学とデザインのさらなる連携や融合のきっかけとなれば幸いである。

末筆ながら, 今回の企画をお手伝いいただいた金沢大学の坂本二郎氏, ご多忙の中記事をご執筆いただいた執筆者諸氏に御礼申し上げます。

(原稿受付 2011年12月27日)

●文 献

(1) GOOD DESIGN AWARD (<http://www.g-mark.org/>).

(2) Raymond Loewy, 藤山愛一郎訳, 口紅から機関車まで インダストリアル・デザイナーの個人的記録, 鹿島出版会, (1981), 311.

(3) 黒木靖夫, 「ウォークマン流ブランド構築術」, 日経BP ITpro, (2007), (<http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/COLUMN/20070918/282253/>).

2012年2月号「グッドデザインと機械工学」小特集号企画小委員会: 主査: 村上 存(東京大学), 幹事: 坂本二郎(金沢大学)